

中部支部巡検会の報告：
子生まれ石の観察とヨコグラノキの報告会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, みつ子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025016

中部支部巡検会の報告： 子生まれ石の観察とヨコグラノキの報告会

松本 みつ子

静岡市清水宝町6-15

平成15年10月12日、小雨の降る中、9人の参加者の下、長島 昭会員・福田 寿会員の案内で、牧の原気象レーダー、子生まれ石、女神山石灰岩の観察が行われた(図1)。午後は、長島・福田会員が珍しいヨコグラノキの種からの発芽に成功したので、その方法についての報告会が相良町立萩間小学校で行われた。そこで地元の「ヨコグラノキ保存会」の人々との熱心な意見交換が行われた。

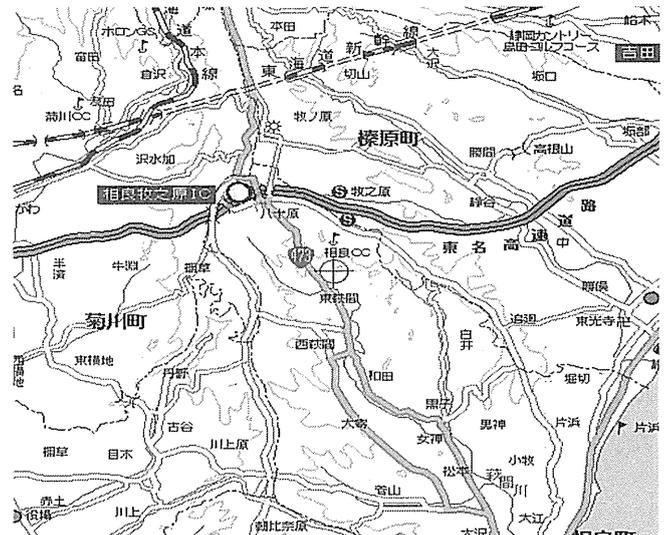


図1. 巡検ルート。

1. Stop 1: 牧の原気象レーダー

標高156 m の茶畑の中にポツンと聖火台のトーチのような建物が立っていた。大きなコンクリート製の無人のレーダー機械室があり、その上に30 m の塔がそびえ先端には直径7 m の円形ドームがあった。内部にはパラボリアンテナが回転し、気象データを静岡地方気象台に送り続けている。富士山レーダーの廃止により、1999年11月より観測が開始された。レーダーは、東海地方、伊豆諸島を中心に半径400 km の気象を観測し、集中豪雨の初期予報など防災情報の提供で大きな役割を担っている。

2. Stop 2: 遠州七不思議の1つとして有名な「子生まれ石」

西萩間の大興寺の裏、萩間川支流の岩壁から直径30~40 cm の球形の石が、まれに現れ、落ちる(図2)。寺の案内板によるとこの石にまつわる、次のような言い伝えがあるそうだ。今から600年程前より、寺の住職が亡くなるたびに、裏山の岩中よりまゆ型型の石が生まれ落ちた。その後も現在まで29代の住職の往生直後に石が生まれ出てきたそうだ。そこで、これらの石は「子生まれ石」と



図2. 子生まれ石。

呼ばれ、小さな社に祭られ、長寿、子授け、安産の石として人々の信仰を集めている。坂口 建氏の調査によると、これらの球形の石（団塊）は、新第三紀鮮新世下部掛川層郡堀之内層の砂岩である。小川の流れが堀之内層の砂泥層を侵食するうちに、この団塊が現れ落ちてくるのだ。その期間が住職 1 代位らしい。堀之内層は砂泥層で35～75 cm の厚さに過ぎないのに、この付近では10 m 以上の厚さになり、この厚い砂層を堆積させる永い時間と同じ堆積環境がこれらの団塊を形成する要因になっているそうだ。

3. Stop 3：女神山石灰岩採石場

新第三紀中新世初期に堆積した大井川層郡の中に塊状やレンズ状に入っているのが、女神山の石灰岩である。できれば化石を採集したいと期待して上ったが、化石を多く含む石灰岩は養鶏飼料として大量に採掘され、一部分は人工大理石の加工材料に採石されて、山の左中央部が大きく削り取られて無くなっていて残念だった。現在、採石は行われていない。萩間小学校には、サンゴ、貝、木の葉など多種の女神山の化石が展示され、児童が身近に化石に触れ学習できる環境があり、嬉しかった。

4. Stop 4：ヨコグラノキについての報告会

石灰岩地帯に極めてまれに生育する好アルカリ性植物であるヨコグラノキが、昭和28年頃、藤江謙二校長により女神山山頂付近で発見され、同38年に、県文化財に指定された。その木は枯れてしまったが、その後、後藤氏（故人）が付近のヨコグラノキから育てた苗を女神山に移植し、現在ではわずかながら女神山と萩間小学校の校庭に育っている。「珍しいヨコグラノキの生態を観察し、増やしていこう。」と長島・福田会員は、開花や結実の様子を写真に収め記録をとる一方、種子の発芽方法を工夫されてきた。今年の春、両氏とも発芽に成功されたので、その詳しい方法を報告された。

(1) 長島 昭会員の方法：平成14年8月、拾い集めたヨコグラノキの果実をガラス瓶に入れ、川砂と水を加え竹の棒でこね回し果肉を取り、種皮の表面に傷をつけた（小鳥が果実を飲み込み、そ

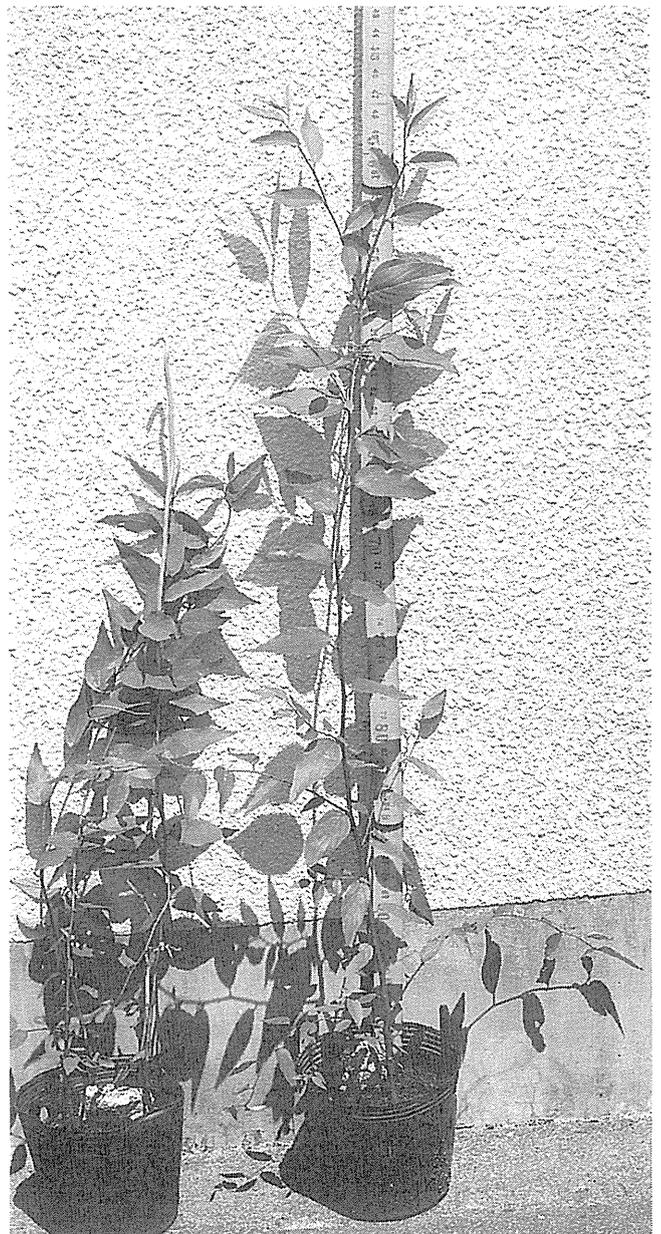


図3. 15～35 cm に生育したヨコグラノキ.

のうで消化し糞として種が散らばる事にヒントを得た)。種子を水に入れ、沈んだ種子を取り出す。女神山の土に種子を蒔く。鉢の土の上に常に女神山の石灰岩片を置く。土が乾いたら水をやりながら、屋外で越冬させた。

4月11日、6本が発芽する。5月17日、本葉が出始める。6月5日、高さ15~17 cmに生育する、2本は枯れた。7月31日、高さ15~35 cmに生育する(図3)。8月31日、高さ54 cmに生育する。

(2) 福田 寿会員の方法：平成14年8月、女神山のヨコグラノキの果実を拾い集める。10月~12月中旬、果実を冷蔵庫(約10°C)に保管する。12月20日、鹿沼土(水でよく洗った)を入れた鉢に果実を蒔く。鉢を部屋の中に置き30~40°Cの温水をかける。平成15年1月15日、3本発芽する。23日、1本発芽する、1本枯れる。2月18日、高さ3~4 cmに生育する(図4)。10月12日、高さ55 cmに生育する。



図4. 3~4 cmに生育したヨコグラノキ。

両会員とも今年はこれらの苗を大きく育てていくと共に、「挿し木にも挑戦していきたい」と意欲を述べられた。地元の「ヨコグラノキを守る会」(会員約20名)の方々からも大きな期待の言葉がかけられた。町の誇りだった女神山が企業のために掘り散らかされ、山の景色も変わってしまったが、珍しいこの木は、町の宝として守り育てていきたいという保存会の人々の熱意が伝わってきた。長島・福田会員が、小学生にもヨコグラノキの育て方を指導しながら次の若い世代にもこの木の貴重な意味を伝え、石灰岩の土壌ならではの郷土の良さを教え、「この木を大切にしていこう」という気持ちを育ててくれている事を知り、嬉しく思った。今回、珍しいヨコグラノキの紹介とその発芽方法を報告し、この地域を案内、説明して下さった長島 昭会員・福田 寿会員に感謝いたします。